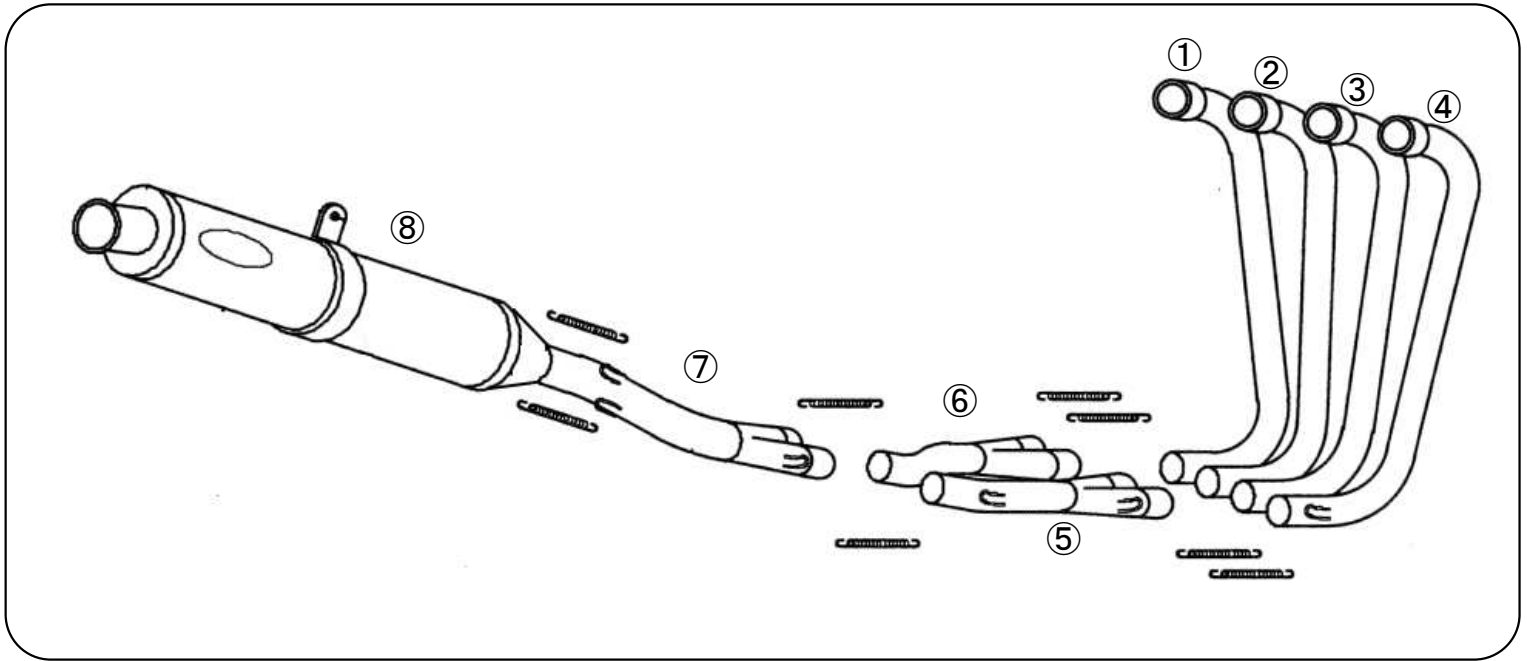


この度は、弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。  
取り付けに関しましては、メーカー発行のサービスマニュアル及び当説明書の指示に従って作業を行って下さい。作業は必ずエンジンが冷えた状態で、且つ車体が安定した状態で行って下さい。このマフラーは、GPZ900R用の商品です。その他の機種に関しては、取り付け確認及び車検対応の確認を行っていませんのでご注意下さい。取り付け作業に関して、ご不明な点などございましたら、当社までお問い合わせ下さい。



### ①純正マフラーの取り外し

純正マフラーを取り外します。(カウル・その他純正パーツの脱着方法に関してはメーカー発行のサービスマニュアルの指示に従ってください)  
取り外しの際の純正ボルト・ナット類の一部はノジママフラーを取り付ける際も使用します。

### ②サイドスタンドストッパーの取り付け

センタースタンドを取り外し、センタースタンド取り付け部の左側の穴に外側からサイドスタンドストッパーを取り付けます。ボルトは取り外したセンタースタンド左側の物を使用してください。(図1参照)

### ③エキゾーストパイプの取り付け

フランジの向き(図2参照)に注意しながら純正の割りフランジを使用してEXパイプを取り付けます。ガスケットは新品をご用意下さい。この時フランジ部のナットはEXパイプが軽く動く程度に仮留めの状態にしておいて下さい。

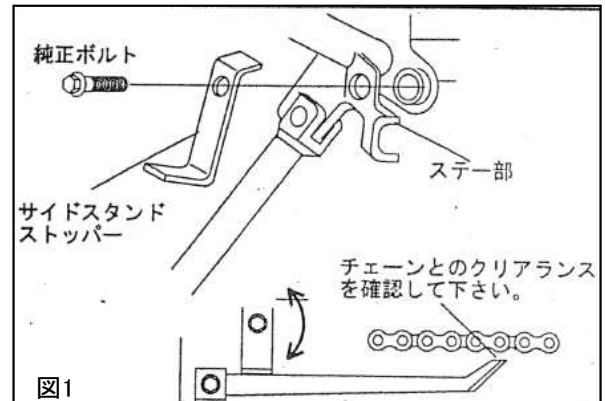
### ④中間パイプ・テールパイプの取り付け

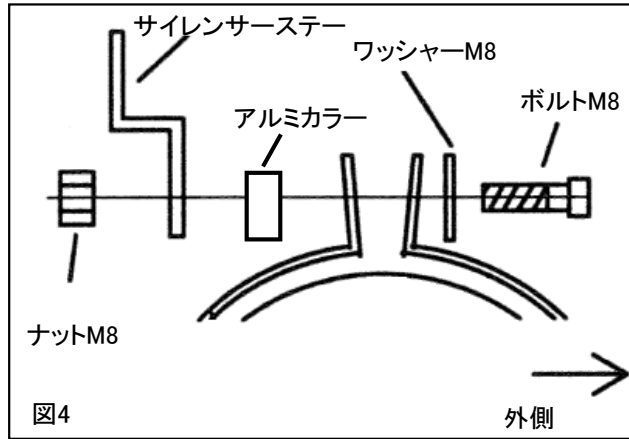
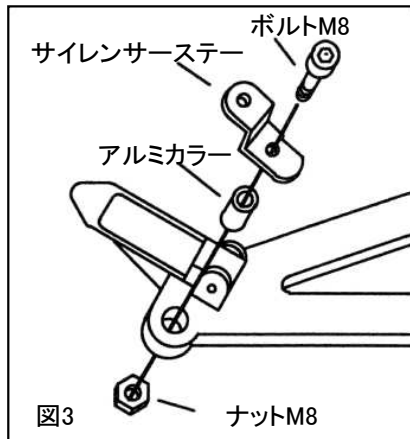
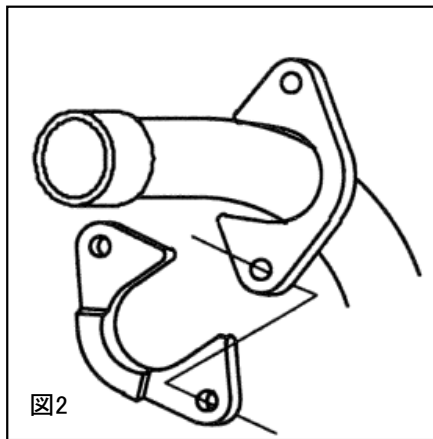
中間ジョイントR/LをEXパイプに差し込み、続いてテールパイプを中間ジョイントに差込みます。入りにくい場合はプラスチックハンマーなどでEXパイプを前方からキズの着かないように注意して軽く叩いて下さい。最後に各部にスプリングを掛けます。

- ※各差込み部には排気漏れ防止の為、シリコンボンド等を薄く塗布する事をお勧めします。
- ※スプリングはペンチ等を用いて作業すると折損の原因になりますので、必ずスプリングフック等をご使用下さい。

パーツリスト(梱包内容)

図番	パーツ名	数量
①	EXパイプ #1	1
②	EXパイプ #2	1
③	EXパイプ #3	1
④	EXパイプ #4	1
⑤	中間ジョイント R	1
⑥	中間ジョイント L	1
⑦	テールパイプ	1
⑧	サイレンサー & バンド	1
⑨	サイレンサーステー (図3)	1
⑩	アルミカラー (図3)	1
⑪	ボルトM8-35 (図3)	1
⑫	ナットM8 (図3)	1
⑬	アルミカラー (図4)	1
⑮	ボルトM8-30 (図4)	1
⑯	ナットM8 (図4)	1
⑰	サイドスタンドストッパー(図1)	1
-	スプリング	8





### ⑤サイレンサーステーの取り付け

サイレンサーステーをステッププレートに取り付けます。(図3参照)

A6以前の車両はタンデムステップバーをA7以降のものに交換する必要があります。

### ⑥サイレンサーの取り付け

テールパイプにサイレンサーを差し込み、スプリングを掛けます。

次にサイレンサーバンドでステー固定します。図4参照。

### ⑦各部の本締め及び取り外したパーツの取り付け

仮留めにしておいたフランジのナットを本締めします。フランジ部が傾いたりしない様に左右のボルトを均等に締め込んで下さい。又締めすぎはスタッドボルトの破損の原因になりますので注意下さい。

最後に各部に干渉の無い事を確認し、マフラーに付着した皮脂などの油分を十分拭き取ってからエンジンを始動し、排気もれの無い事を確認し、必要があれば修正します。最後にカウル等のパーツを元通りに取り付けます。

※皮脂等が残ったままチタンパイプに熱が加わると焼けムラの原因になります。十分脱脂を行って下さい。

#### 注意！

走行中や走行後、マフラーは非常に高温になります。火傷や衣類・靴等への熱害・損傷には十分お気をつけ下さい。又、駐車の際は他の人が触れない様にご配慮下さい。

グラスウール(消音材)は消耗品です。主な消耗の例としては、「排気圧によるグラスウールの飛散」、「カーボン(スス)の堆積による目詰まり」、「水分を含む事による消音能力の低下」、等があり、消耗の進み方は走り方や環境によって大幅に変わります。グラスウールの飛散はほぼ使用期間に比例しますが、その他のケースは使用状況によってはごく短期間で発生する場合があります。主な原因は吸気系/点火系の不具合や乗り方によるカブリ症状から起こるカーボンの堆積、雨水や燃焼時の水分が排出されずにいる事から起こる水分の滞留などです。カーボンの発生は定期的なメンテナンスやカブリさせない乗り方を意識する事で防ぐ事ができ、サイレンサー内に一時的に溜まった水分は、高回転域を使用する事で蒸発→排出されますので、定期的に適度に回して乗る事で解消する事ができます。(スピード違反を推奨するものではありません。安全に法令遵守の範囲でお願いします。)

グラスウールが消耗した状態での走行は周囲の迷惑になるだけでなく、マフラー及び車両の故障に繋がる場合がありますので、音量の増加等、グラスウール消耗の症状が表れた際はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。

走行時、走行後は大変マフラーが高温になっています。火傷にお気をつけ下さい。

シンナー等の強力な有機溶剤は本製品には使用しないで下さい。

転倒等に伴う修理に関しましては、状態によりお受けできる場合と出来ない場合がございます。電話・メール等にてお問合せ下さい。